

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
専門学校 読売自動車大学校	昭和57年3月30日	榎本 俊弥	〒136-0071 東京都江東区亀戸2-28-5 (電話) 03-3685-6761																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人 読売理工学院	昭和45年1月31日	理事長 千葉 康文	〒108-0014 東京都港区芝5-26-16 (電話) 03-3455-0221																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
工業	工業専門課程	自動車整備学科	平成19年文部科学省 告示第34号																								
学科の目的	自動車社会の環境と安全を維持する優秀な自動車整備技術者を養成するため、現在の自動車業界に対応できる基本的な技術知識の教育を通じ、社会に貢献する人材の育成を行う。																										
認定年月日	平成19年2月22日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	2055時間	733時間	216時間	1295時間	18時間	14時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
480人	274人	162人	16人	14人	30人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 秀、優、良、可、不可の五種で表し、 秀、優、良、及び可を合格とする。																						
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月31日			卒業・進級 条件	必修科目をすべて修得すること。 2年進級時限定教科9単位以上修得。 2年修了時に学科600h以上、実習 1200h以上を修得。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任が個別面談を行い、生活・就職等の指導をきめ細かく実施。更に臨床心理士のカウンセラーも置き、教員とも連携した支援体制を取っている。			課外活動	■課外活動の種類 オリエンテーション、スポーツ大会学生実行委員会、 24時間TV学生ボランティア活動、ラリー大会学生実行委員会、 文化祭実行委員会、 ■サークル活動: 有																						
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 自動車ディーラー、保険会社、自動車メーカー、独立行政法人など ■就職指導内容 教員2名、職員1名の就職担当が中心で就職指導を行うが、就職相談や面接練習などをクラス担任も随時行っている。就職関連の授業では企業の人事担当者による講演も実施している。 ■卒業生数 139 人 ■就職希望者数 118 人 ■就職者数 118 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 84.9 % ■その他 ・進学者数: 5人 (平成 29 年度卒業者にに関する 平成30年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業者にに関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二級カワシ自動車整備士</td> <td>②</td> <td>146 人</td> <td>144 人</td> </tr> <tr> <td>二級ゼセル自動車整備士</td> <td>②</td> <td>146 人</td> <td>140 人</td> </tr> <tr> <td>低圧電気特別講習</td> <td>③</td> <td>160 人</td> <td>148 人</td> </tr> <tr> <td>保険募集人資格</td> <td>③</td> <td>64 人</td> <td>38 人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	二級カワシ自動車整備士	②	146 人	144 人	二級ゼセル自動車整備士	②	146 人	140 人	低圧電気特別講習	③	160 人	148 人	保険募集人資格	③	64 人	38 人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
二級カワシ自動車整備士	②	146 人	144 人																								
二級ゼセル自動車整備士	②	146 人	140 人																								
低圧電気特別講習	③	160 人	148 人																								
保険募集人資格	③	64 人	38 人																								
中途退学 の現状	■中途退学者 44 名 平成29年4月1日時点において、在学者340名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者296名(平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更・学校生活への不適合・経済的問題等 ■中退防止・中退者支援のための取組 クラス担任による個人面談や三者面談を通じ、きめ細かく指導している。臨床心理士のカウンセラーによるカウンセリングを実施すると共に、教員に対するカウンセリング技術に関する研修も行っている。シミュレータを利用するなど、理解しやすい授業内容を工夫している。			■中退率 14.9 %																							
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 読売育英奨学制度、小林與三次記念奨学金、留学生特別奨学金制度、校友会待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																										
当該学科の ホームページ URL	<a href="https://vccm.ac.jp/dept_mechanics/">https://vccm.ac.jp/dept_mechanics/</a>																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

近年、自動車に搭載される技術の高度化が速くなっているため、最新の教材を毎年導入し実習内容の見直しを実施するとともに、自動車関連企業の技術者を兼任教員として招聘し実践的な教育を実施している。また、本校卒業生の就職先である自動車整備業界が必要とする人材を育成するために、学科授業において企業の職員に講師を依頼して授業を実施している。企業等と学校間の意見交換の場を定期的に設けることにより、企業との連携を強化することで教育課程改善のPDCAサイクルをより充実させる。(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教務委員会において、カリキュラムを検討する上で、教育課程編成委員会の議事録を参考として教育内容の検討を行っており、企業での整備内容を把握することで実践的な教育内容の向上を図っている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年7月10日現在

名前	所属	任期	種別
松島 俊一	一般社団法人 東京都自動車整備振興会 教育部 部長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	①
今井 一之	株式会社関東マツダ人財開発部人財開発グループ 主幹	同上	③
榎本 俊弥	専門学校読売自動車大学校 校長	同上	
渡辺 宜男	専門学校読売自動車大学校 校長補佐	同上	
北村 眞一	専門学校読売自動車大学校 1級整備学科 学科長	同上	
北島 鎮夫	専門学校読売自動車大学校 自動車整備学科 学科長	同上	
鈴木 雄一郎	専門学校読売自動車大学校 教務委員長	同上	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回、7月と11月に開催する。

(開催日時)

第1回 平成30年7月26日 15:30～16:30

第2回 平成30年11月15日 15:30～16:30 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

新たにコモンレール車を購入し一級課程、二級課程両学科で活用している。教科書の内容に合わせて、コモンレールの単体部品教材も導入した。外部診断機も新型コモンレール教材に対応させた。

教育環境については、教材車に給油したガソリン缶の処理や、危険物の管理について周知徹底した。また、避難通路の確保など、安全管理の観点からも再度ルールの周知を行い安全管理に努めている。

実習場の教育スペースの確保対策として、学生用の荷物棚や、エンジン分解部品用棚を半数の実習場に設置。整理整頓ができ有効に機能しているため、残りの実習場にも次年度に設置することとした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等の人材ニーズを活かし、自動車整備関連企業で必要となる実践的で専門的な能力を育成するために、実習・演習等の授業において組織的な企業等との連携により、最新の技術動向が反映された技術・技能を教育する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

1・2年次の実習において、企業現場での実践的な整備作業の基本を教育することを目的とし、(3)に示すように、企業連携による実習を実施している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
電気装置1	バッテリー、単体車体電装品	有限会社ウタシロ
エンジン6	列型、分配型インジェクション・ポンプ、ポンプテスト、電子制御装置、コモンレール式高圧燃料噴射装置	有限会社ウタシロ
C総合実習	ATの総合点検	有限会社ウタシロ
シャシ1	動力伝達装置(T/M、クラッチ)	株式会社トライボジャパン
電気装置5	エアコン、グロー回路	株式会社トライボジャパン

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

自動車整備分野の実務に関する研修として、東京都自動車整備振興会や全国自動車大学校・整備専門学校協会(JAMCA)並びに自動車メーカー等が開催する技術研修会に参加する。学生指導に関する研修として、東京都専修学校各種学校協会、東京都私学財団等の開催する研修会に参加する。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・マツダSKYACTIV技術セミナー(教員対象の技術研修1日間。自動車メーカー主催の最新技術SKYACTIVを理解するための研修)
- ・いすゞ自動車技術研修会(教員対象の技術研修1日間。自動車メーカー主催のコモンレールの故障探求法を理解するための研修)
- ・JAMCA新技術研修会(教員対象の技術研修4日間。整備学校協会主催のHV・EV・FCVの構造・整備法を学ぶための研修)
- ・整備主任者技術研修(教員対象の技術研修1日間。国土交通省主催の安全ブレーキ、アクティブLEDヘッドランプ等の新技術研修)
- ・BMWJAPAN Academy見学会(教員対象の教育研修1日間。自動車ディーラー主催の整備士教育の設備と教育内容の研修)
- ・トヨタ技術コンクール南関東大会(教員対象の教育研修1日間。自動車ディーラー主催の企業が求める整備レベルを理解する研修)
- ・ヤマハ発動機研修会(教員対象の教育研修1日間。自動車メーカー主催の実験職の業務内容の詳細を理解するための研修) 他

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・JAMCA一級対策教育研修(教員対象の教育研修1日間。整備学校協会主催の国家試験対策授業を向上させるための研修)
- ・留学生生活指導等講習会(教員対象の教育研修1日間。東京都主催の留学生への生活指導に関する講習)
- ・職業実践専門課程質保証向上セミナー(教員対象の教育研修1日間。東専各主催の教育の質保証に関する講習)
- ・第三者評価調査委員リーダー研修会(教員対象の教育研修1日間。東専各主催の教育の質保証に関する講習)
- ・第三者評価者養成研修会(教員対象の教育研修1日間。整備学校協会主催の質保証のための第三者評価に関する研修) 他

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

- 国土交通省が行う整備主任者講習や振興会各メーカー主催の新技術研修会、JAMCA主催の技術研修会等に積極的に参加する。
- ・整備主任者技術研修(教員対象の技術研修1日間。国土交通省主催の新技術研修)
  - ・いすゞ自動車技術研修会(教員対象の技術研修1日間。自動車メーカー主催の新技術研修)
  - ・JAMCA新技術研修会(教員対象の技術研修4日間。整備学校協会主催の新技術の構造・整備法を学ぶための研修) 他

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

- 官公庁や東京都専修学校各種学校協会、JAMCAなどが主催する教育指導に関する研修会等に積極的に参加する。
- ・整備主任者法令研修(教員対象の法令研修1日間。国土交通省主催の法令改正に関する研修)
  - ・JAMCA一級対策教育研修(教員対象の教育研修1日間。整備学校協会主催の国家試験対策授業を向上させるための研修)

### 4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

#### (1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、卒業生・保護者・地域住民・企業等役職員等の学校関係者を選任し、学校が実施した自己評価の結果に関する評価を行い、教育活動と学校運営の改善に向けた助言を行う。なお、評価の観点は次の項目による。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策等が適切かどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策等が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取組みが適切かどうか

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。学校における職業教育の特色はなにか。社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。
(2)学校運営	目標等に沿った運営方針が策定されているか。運営方針に沿った事業計画が策定されているか。運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。
(3)教育活動	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。
(4)学修成果	就職率の向上が図られているか。資格取得率の向上が図られているか。退学率の低減が図られているか。
(5)学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。学生相談に関する体制は整備されているか。学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。
(6)教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。
(7)学生の受入れ募集	学生募集は、適性に行われているか。学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。学納金は妥当なものとなっているか。
(8)財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。財務について会計監査が適性に行われているか。
(9)法令等の遵守	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。
(10)社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか。
(11)国際交流	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っているか。留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

基準項目毎に4段階で評価を報告書としてまとめ、評価内容や提起いただいた課題をもとに改善を行っている。学生への緊急連絡法の見直しや地域に対するボランティア活動を実施するなどの実績がある。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年7月10日現在

名前	所属	任期	種別
今井 一之	株式会社関東マツダ人財開発部人財開発グループ 主幹	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業
齋藤 春男	亀戸二丁目町会 会長	同上	地域
松本 等	読売自動車大学校同窓会 会長	同上	卒業生
原田 友子	専門学校読売自動車大学校 4年 保護者	同上	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページにて例年9月に「学校関係者評価報告」として公表している。  
<https://yccm.ac.jp/guidance/kankeisyahyouka28.pdf>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学生便覧やカリキュラム、年間予定を配布すると共に、学科の教育・就職活動の現状を報告することで把握いただいている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	同左
(2)各学科等の教育	同左
(3)教職員	同左
(4)キャリア教育・実践的職業教育	同左
(5)様々な教育活動・教育環境	同左
(6)学生の生活支援	同左
(7)学生納付金・修学支援	同左
(8)学校の財務	同左
(9)学校評価	同左
(10)国際連携の状況	同左
(11)その他	同左

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

<https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html>

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備学科) 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		PCプラクティス	顧客データの管理、伝票の作成など、多くの仕事にパソコンを利用しており、整備士もパソコンを使いこなす必要がある。表計算ソフト(エクセル)の使用法を中心に講義する。	1前	20			○		○			○		
		○	体育実技	球技を中心とした、体育実技全般を行い、運動能力と体力の増進を図る。	1後	14				○		○			○	
	○		ビジネスマナー1	就職活動を行うために必要な一般的常識、マナーについて講義する。また、ソーシャル検定の取得を目標とした講義も行う。	1前	17			○			○		○		
	○		ビジネスマナー2	社会人として必要な一般的常識、マナーについて講義する。また、自動車販売会社の人事担当者による講義を実施し、企業が求める人材を把握する。	1後	21			○			○		○		
		○	日本語1	留学生を対象とし、聴解・読解・会話について、総合的な日本語能力の向上を目的に授業を実施する。	1前	27			○			○			○	
		○	日本語2	継続して日本語教育の必要である留学生を対象とし、日本語能力の向上を目的に授業を行う。	1後	31			○			○			○	
	○		危険物取り扱い法	乙種4類危険物取扱者試験に合格するための知識を身につけるための講義を行う。	1前	24			○			○		○		
		○	英語	基礎文法を含め、基礎的な英語力を習得する。英語の読解・ヒアリング能力の向上を図り、英検3級程度の英語力を身につけることを目的とする。	1後	18			○			○			○	
		○	ドライビング・レッスン	安全運転の技能、知識を身につけ、自動車の走行時の運動特性の基本を理解する。	1後	14			○			○			○	
		○	パソコン演習	「PCプラクティス」での基本的操作だけでなく、コンピュータに興味を持ち、知識を深めたい学生を対象に、MOS合格を目標に講義演習を行う。	1後	18			○			○			○	
	○		安全科学	自動車整備士が知っておくべき安全の知識を修得する。作業中の安全、災害時の対応、損害を受けた場合の保証の問題等について講義する。	1前	20			○			○		○		

## 授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		自動車概論	将来自動車関連産業にかかわる者にとって必要な自動車の教養科目であり、自動車産業の成り立ちから、車社会の問題、自動車に係わる環境問題について講義する。	1前	20		○			○		○		
	○		実験ゼミ	エンジンの動力実験や加速度実験など、自動車に関連した実験を行うことにより、自動車工学をより深く理解する。	1後	18				○	○		○		
		○	電気工学演習	電気工学で学んだ知識について、演習と解説によってさらに理解を深める。	1後	18			○		○		○		
	○		二輪基礎	燃料装置やサスペンション等について、二輪車に特有な装置の構造作動を解説する。	1後	18		○			○		○		
		○	カー・エンジニアリング演習	1年I期に学んだエンジン1、シャシ・ボディ1及びカー・エレクトロニクス1の復習を行い理解を深める。	1後	18			○		○		○		
○			図学基礎	自動車の構造、機能等を理解するためには図面を読みとる能力が必要となる。図面に対する約束ごとを講義し、プリントに従って演習を行う。	1前	18			○		○		○		
○			燃料と油脂	原油から精製されるガソリンや軽油、LPG等の燃料や、部品の潤滑に使用される潤滑油等、自動車の走行に重要な働きをする燃料・油脂の精製法や特性等を理解する。	1前	18		○			○		○		
○			自動車材料	自動車部品は、要求される性質で、金属、非金属、ゴム、ガラス、プラスチックなどを使い分けている。要求される性質とそれに適合した材料及びその性質について講義する。	2前	24		○			○		○		
○			電気工学	自動車の中で、重要な役目を担う電気装置を理解するために、電気磁気の基本、直流、交流回路の基本的な理論を講義する。	1前	20		○			○		○		
○			自動車工学1	自動車に関する基本的な構造や走行・停止の原理などを理解し、機械工学の基礎的な知識を学ぶ。	1前	20		○			○		○		
○			自動車工学2	計算の基本や単位の換算について、解説と演習による復習を行った後、自動車に関する基本的な機械工学計算について理解する。	1後	21		○			○		○		

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自動車工学 3	二級国家試験を年頭に置き、機械工学の基本を復習し、応用計算の講義と演習を行う。	2前	22		○			○		○		
○			自動車工学 4	二級国家試験の工学問題について演習と解説を行い、機械工学の知識と応用計算力の向上を目指す。	2後	35		○			○		○		
○			エンジン・1	ガソリン・エンジン、ディーゼル・エンジンの基本的な構造・作動について講義する。	1前	20		○			○		○		
○			シャシ・ボディ1	自動車の基本運動性能である「走る、曲がる、止まる」の概要について、その機構の基本的な構造作動を講義する。	1前	20		○			○		○		
○			カー・エレクトロニクス1	自動車の電気装置のうち、エンジン電装品である、バッテリー、スタータ、オルタネータ等の基本を講義する。	1前	20		○			○		○		
○			ガソリン・エンジン2	ガソリン・エンジン内部の各構成部品の構造・役割を理解し、電子制御式燃料噴射装置やキャブレターなどの燃料装置の構造・機能について学ぶ。	1後	18		○			○		○		
○			ディーゼル・エンジン2	自動車用ディーゼルエンジンの燃料装置を中心に、ガソリン・エンジンと比較しながら、その構造と作動を理解する。	1後	21		○			○		○		
○			シャシ・ボディ2	動力伝達装置のマニュアル・トランスミッション、デファレンシャル、また、制動装置のドラム・ブレーキ、ディスク・ブレーキなどの構造と作動を理解する。	1後	18		○			○		○		
○			カー・エレクトロニクス2	始動装置・充電装置・点火装置の基本回路について解説する。また、ライトなどの車体電気装置にも触れ、電気装置に関するトラブル・シューティングの知識についても学ぶ。	1後	21		○			○		○		
○			ガソリン・エンジン3	二級自動車整備士にとって必要となる、最新型エンジンの技術について、その目的や必要性を含めて講義する。	2前	24		○			○		○		
○			ディーゼル・エンジン3	二級自動車整備士にとって必要な知識である、近年問題視されているディーゼル・エンジン排気ガス(PM、黒煙等)や新技術(コモンレールエンジン)について講義する。	2前	22		○			○		○		



## 授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			シャシ・ボディ3	二級自動車整備士にとって必要な知識である、近年進歩がめざましい電子制御を応用した走行装置について講義する。	2前	24		○			○		○		
○			カー・エレクトロニクス3	二級自動車整備士にとって必要な知識である、各電気装置の特性やトラブル・シューティングについて講義する。	2前	22		○			○		○		
○			ガソリン・エンジン4	ガソリン・エンジンに関する二級自動車整備士試験問題の演習と解説を通し、エンジンの構造作動に関する理解を深める。	2後	39		○			○		○		
○			ディーゼル・エンジン4	ディーゼル・エンジンに関する二級自動車整備士試験問題の演習と解説を通し、エンジンの構造作動に関する理解を深める。	2後	35		○			○		○		
○			シャシ・ボディ4	シャシ・ボディに関する二級自動車整備士試験問題の演習と解説を通し、シャシに関する装置の構造作動に関する理解を深める。	2後	39		○			○		○		
○			カー・エレクトロニクス4	電気装置に関する二級自動車整備士試験問題の演習と解説を通し、電気装置の回路・作動に関する理解を深める。	2後	43		○			○		○		
○			総合整備法	今まで学だ専門科目の総仕上げとして、二級自動車整備士国家試験に100%合格できる実力を身につけることを目的とし、二級問題を中心に講義と演習を行う。	2後半	10			○		○		○		
○			車検・法規1	自動車に関係する法律の解説で、道路運送車両法、道路運送車両施行規則、自動車点検基準などを理解する。	2前	22		○			○		○		
○			車検・法規2	新規・継続検査の法令、道路運送車両法の保安基準、通達等を理解する。又、検査の実施方法、検査機器の構造、作動及び測定要領、検査実施上の注意事項を理解する。	2後	34		○			○		○		
○			ディーゼル・エンジン4	ディーゼル・エンジンに関する二級自動車整備士試験問題の演習と解説を通し、エンジンの構造作動に関する理解を深める。	2後	35		○			○		○		
○			エンジン1	小型ガソリン・エンジンのオーバー・ホール	1前	38				○	○		○		

## 授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			シャシ1	動力伝達装置 (T/M、クラッチ、D/F)	1 前	38				○	○		○		○
○			電気装置1	バッテリー、単体車体電装品	1 前	38				○	○		○		○
○			測定作業	ノギス、マイクロメータ測定法、車両日常点検	1 前	38				○	○		○		
○			工作作業	基本工作作業	1 前	38				○	○		○		
○			二輪1	4サイクルエンジンのオーバーホール、動力伝達装置、CDI、キャブレタ	1 後 上	61				○	○		○		
○			シャシ2	ブレーキ装置、走行装置	1 後 上	61				○	○		○		
○			シャシ3	MT車のトランスミッション脱着、トランス・アキスル	1 後 上	61				○	○		○		
○			エンジン2	小型シールドエンジンのオーバーホール、測定作業、列型ポンプ	1 後 上	61				○	○		○		
○			電気装置2	バッテリー、スタータ、点火装置	1 後 上	61				○	○		○		
○			二輪2	スクーターの動力伝達装置	1 後 下	38				○	○		○		
○			電気装置3	エンジン電装品、オシロスコープの取り扱い	1 後 下	38				○	○		○		

## 授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			エンジン 3	電子制御燃料噴射装置その 1	1 後 下	38				○	○		○		
○			シャシ 4	実車ブレーキのオーバー・ホール	1 後 下	38				○	○		○		
○			シャシ 5	動力伝達装置及び走行装置 (LSD, ステアリング, タイヤ)	1 後 下	38				○	○		○		
○			エンジン 4	台上ジゼルエンジンのオーバー・ホール、V 6エンジン、水平対向エンジン、ロータリエンジン	2 前	61				○	○		○		
○			エンジン 5	電子制御式燃料噴射装置その 2、トラブルシュート	2 前	61				○	○		○		
○			電気装置 4	実車車体電装品の回路と作動、トラブルシュート	2 前	61				○	○		○		
○			シャシ 6	車検・定期点検、4輪ホイール・アライメント、外部診断機でのHV車ブレーキ液交換	2 前	61				○	○	○	○		
○			シャシ 7	ATの構造作動、及び実車による点検、エア・ブレーキ	2 前	61				○	○		○		
○			二輪 3	4気筒用キャブレターの脱着、点検、調整。フロントフォークのオーバー・ホール	2 後 上	46				○	○		○		
○			電気装置 5	シャシ電装品(エアコン等)及び予熱装置	2 後 上	46				○	○		○	○	
○			エンジン 6	列型・分配型インジェクション・ポンプ、ポンプ・テスト、電子制御装置、コモンレール式高圧燃料噴射装置	2 後 上	46				○	○		○	○	

## 授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			エンジン7	実車エンジン・セミアバール、過給器	2 後 上	46				○	○		○		
○			シャシ8	ステアリング装置(P/S, EPS)	2 後 上	46				○	○		○		
○			G総合実習	電子制御式燃料噴射装置その3	2 後 下	15				○	○		○	○	
○			D総合実習	ジーゼルエンジンの燃料装置	2 後 下	15				○	○		○		
○			C総合実習1	A Tの総合点検	2 後 下	15				○	○		○	○	
○			C総合実習2	ホイール・アライメント及びタイヤ・ホイールの総合点検	2 後 下	15				○	○		○		
○			E総合実習	トラブルシューティング	2 後 下	15				○	○		○		
合計				73 科目				2 2 5 2	単位時間(				単位)		

890.4

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。